

若月 三喜雄氏

アクサ生命保険 取締役会長

#135



紹介者



池田 守男氏
資生堂 相談役

1990年代 初の頃、金融界でデリバティブの活用が盛んになり、若手のトレーダーがデリバティブ取引で多額の利益を上げて花形となってきた。しかし他方では、この取引で巨額の損失を被るケースも出てきて、バーゼルの中 央銀行首脳の会議などでも話題となった。英蘭銀行の総裁は、デリバティブが絡んだ取引は年齢が35歳を超える人にはなかなか理解できず、従ってトレーダーの 上司たちはリスクの把握や管理が十分でなくなっているところから、これをもじった「rule of 35」という言葉が金融界でちょっとした流行になった。

その後、金融工学はさらに進歩し洗練されていったが、サブプライム問題に端を発する金融危機が起こると、多くの金融機関で高度な金融商品の取引で巨額の損失を出している。英国の新聞によると、ある英銀の若手トレーダーが先端的商品であるCDOの確率計算モデルが誤りを含んでいることを発見して、これを上司に伝えたところ、余計なことを言うなと却下されたという。この銀行はCDOに絡んで多額の損失を出している。また、別の銀行でも仕組み商品のリスク計算モデルが価格設定を甘める誤りがあることに早くから気付いていたが、担当者からの警告は無視され、やはり大きな損失につながったという。今回の金融危機には、個々の金融機関の問題を超えた大きな経済的・社会的要因があることは否めないが、反面、個々の金融機関が自ら危機を大

次回

門脇 英晴氏
(日本総合研究所 特別顧問)

にご登場いただきます。

金融技術と人間

大きくした面も認めないわけにはいかない。

金融技術はますます高度化・精緻化してきて、これを上手に活用していくことが金融ビジネスでは不可欠になってきている。しかし、技術を盲信したり、形だけ都合よく使ったりしているケースがいかに多いか、今回の危機でも例外でない。結局、技術とは別の、人間の要素によるリスクをどう管理するかという、古くからの問題が相変わらず肝心である。もちろん、これは金融ビジネスだけの問題ではないだろう。